

平成24年度事業計画書

公益財団法人 有機質資源再生センター

平成24年度事業計画

1. 前書き

現行の平成23年度の経過を俯瞰しながら、平成24年度の実業計画の骨子を以下に記述する。

- ・現在の年度においては、東北大震災、国内での台風、外国での金融危機、洪水災害などによる景気の停滞感から、退会会員数も8社を数え、新規入会2社があったにも拘わらず、6会員減となり、現在会員数は107であるが、更に減ることも予想され、平成24年度では、収入の要である会費収入を厳しく見ざるを得ない。
- ・受託事業については、昨年度の実業の継続的な形として、マッチングシステムの関東版を全国版に広げる事業を受託出来たに止まり、3案件の達成を見越した食品廃棄物のループリサイクル構築支援は進展はみだもの事業としてはひとつも成立しなかった。この進展具合から平成24年度では進展のあった3案件の実業化を再度目指すこと致したい。
- ・日本がロシアやカナダとともに京都議定書を離脱したことなどにより、排出権取引市場への先行きの不安定感から排出量検証人などへの研修の手控えで、研修の実施には至らなかったが、かつて研修を実施したJQA社をはじめ、平成24年度は同業他社にも対象を広げて営業を致したい。
- ・啓発事業を通しての財団の認知度の一層の促進は、定期的な機関紙の発行、食品リサイクルサロンの開設、一般消費者向けエコツアーなどを実施できたことにより、より広い対象者を相手に語る事が出来たので、平成24年度は、これらをルーチン化すべく、年間を通して下記スケジュールによりきっちりと実施する。
- ・公益法人化に年央から取組んできた結果、平成24年度初めから公益法人として活動することが可能となるが、一般消費者に向けた発信に重きを置いたため、会員対応が手薄に感じられるので、会員企業へのメリットの増進にもしっかり取り組む。

以上の考え方を柱に、現行の年度で開始した各種事業(下表の水色表示)を財団の定例事業として定着させることを第一の目標として進めたい。

また、予算枠から外してある事業(下表の赤色表示)についても各種事業の進展をみながら、柔軟に対処し、それらの実現を図ることと致したい。

2. 事業項目と大まかなスケジュール

(金額の単位は千円)

公益目的事業と区分 公1「有機質資源等のリサイクルの促進に資する事業」	科目 (通称)	項目 (実際の事業名)	予算額 (事業費) (事業収入)	月別事業計画											
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
(公1の中の区分) (1)技術開発、研究開発事業	受託事業	・3研究所の関係する業務 (農水省等受託案件) ・海外等バイオマス案件	0 / 0	～ 新規の受託事業は見込んでいない。また、各研究所の数字もこの段階では数値化出来ない状況にある～ ～ 新規の受託事業は見込んでいない。また、各研究所の数字もこの段階では数値化出来ない状況にある～											
(2)講座、セミナー、育成事業	啓発事業	・食品リサイクル・サロン ・セミナーの開催(会員用に復活) ・研修事業	312 / 0 420 / 0 0 / 0	○4/26		○6/29		○8/30		○10/25		○12/20		○2/21	
(3)表彰、コンクール事業	啓発事業	・エコフィード料理コンテスト	2,790 / 300				○告知開始	○ポスター掲示	○予選会×2	○予選会×2	○優勝者大会	○コンテスト表彰式 (レシピ集も配布)			
(4)体験活動事業	啓発事業	・エコツアー	1,036 / 120			消費者団体			消費者団体		LR構築社			消費者団体	
(5)相談、助言事業	業務支援事業	・業務支援事業 ・タンポポルコンホ 普及支援	450 / 180 930 / 0												
(6)キャンペーン事業	啓発事業	・ニューズレターの発行 ・政策提言 ・環境展	1,323 / 0 200 / 0 1,400 / 0						○第4号					○第5号 ○第6号	
		(合計)	4,671 / 300											○ 上期半期の資金の状況から、余裕があれば準備を開始 (5月に出版)	

以上